

保健師職能委員会だより

第3号 令和6年2月発行

日頃より県看護協会保健師職能委員会の活動にご理解とご協力を賜り、感謝申し上げます。

1月1日に発生した令和6年能登半島地震において、亡くなられた方々の御冥福をお祈り申し上げるとともに、被災された方々にお見舞い申し上げます。また、被災地域で支援活動に尽力されている会員、看護職の皆さまに心から敬意を表します。

令和5年5月8日以降、新型コロナウイルス感染症が5類となり、アフターコロナの健康づくりを進めていく時代となりました。多問題を抱える解決困難な事例のマネジメントの増加、保健師の技術を伝承する重要性、健康危機が発生する時代にどんな状況にも対応できる人材育成の取組などが重要となっています。今後、このような課題に対応し、よりよい保健活動の展開をしていくために、保健師職能同士のつながりや他の看護職との連携を強化し、地域で暮らす住民の健康と療養を支援するため、様々な研修会や合同集会等を開催いたしました。

令和5年度岩手県看護協会保健師職能委員会

活動目標

保健師が住民の暮らしを守り、地域の健康課題に適切に対応できるよう、専門職としての資質の向上及び力量形成につながる活動を行う

活動方針

- ◆保健師を取り巻く社会的な課題と役割を明確にし、意見を集約する
- ◆保健師相互及び多職種の交流・連携を図り、全世代の健康と療養を支える地域包括ケアの推進に関する活動を行う
- ◆保健師の専門職としてのキャリア形成に関する現任教育の取組を推進する
- ◆地域における健康危機管理体制の強化に関する活動を行う



岩手県看護協会職能合同集会（6月17日開催）

講演「いかす・つくる・つなぐ 裂き織から生まれる色とりどりの可能性

ーいのちの現場へのエールー

演者 株式会社 幸呼来 Japan（さっころじゃぱん） 代表取締役 石頭悦氏

座長 公益社団法人岩手県看護協会 副会長 佐藤悦子氏

今年度は、生活者であるとともに医療従事者として新型コロナウイルス感染症と対峙してきた看護職が、「元気」「活気」「勇気」をもち、こころに元気を呼び戻し歩む活力を得る機会とするため、裂き織を通じ障がいのある人たちの力を発信している石頭悦氏よりご講演いただきました。

障がいのある人たちに対する考え方の変化、障がいのある人たちが身につけた裂き織の技術を継承するために自身の信念のもとに歩んだ道のりを、事業所の作業風景を交えてご紹介いただきました。裂き織を作成する一つひとつの過程を大切に、責任を持ち取り組んでいる姿は、看護職の看護過程も同様で、それぞれの役割を繋ぎ織りなしていると感じる場面でした。会場からは「各々の違いを認めあい心豊かに過ごせる社会」を目指した設計図は、地域包括ケアシステムにおいてそれぞれの担う役割を示した姿に通じている、講師のバイタリティに元気をいただいた等、まさに「いのちの現場へのエール」を受け取った感想をいただきました。

参加者：135名（保健師20名、助産師9名、看護師I92名、看護師II14名）

講演「人・組織が持っている力と可能性を引き出すコーチング

～一人ひとりの新たな発見や気づきを促しパフォーマンス向上を目指して～

講師 公立大学法人岩手県立大学 看護学部 助教 中野千恵子氏

この研修では、相手の本来持っている力や可能性を最大限に発揮できるようサポートするためのコミュニケーション技術であるコーチングについて学びました。コーチングの原則などを理解した上で、3～4名のグループに分かれ、エクササイズ（実践演習）を行い、コーチングスキルの有用性を学びました。日頃のコミュニケーションを振り返る機会となり、保健活動の業務に反映させたいという感想が聞かれ、有意義な研修となりました。

参加者：23名（ハイブリッド開催）



テーマ 「保健師を取り巻く課題を共有しよう」

今年度の各支部での活動状況や課題となっていること、保健師間の連携や協働等の取組について話題提供し、情報を共有しました。

- ▶ 新型コロナウイルス感染症が5類になったことにより、支部委員会や研修会が参集での開催になってきたこと。改めて顔の見える関係ができ、より連携しやすいこと。支部での活動やイベントを通して、産業保健分野の方と連携を図ることができた好事例が紹介されました。
- ▶ 日頃の保健活動の中で、複雑・多問題のある方の対応について、必要時には関係者が集まり事例検討会を行い、それぞれの役割や活動を視える化し、個別課題から地域課題へ、施策化の視点を持つことを保健師全体に広めていくことを共有しました。
- ▶ 地域では、統括保健師等連絡会を開催し、地域課題や人材育成など情報共有や意見交換が行われていました。
- ▶ 会員拡大については、どの支部においてもなかなか入会に至らないという共通の課題があり、メリットの伝え方の工夫やツールの活用などで、各所属で継続して取り組んでいくことを確認しました。

活発な話し合いにより、他支部の活動の共有化や新しく職能委員となった委員とのつながりができ、有意義な交流会となりました。

参加者：16名（9支部9名、本部6名、保健師担当理事の千葉副会長）



講演「医療と暮らしをつなぐ看護力

—健康と療養を支える看護職の連携と裁量発揮に向けて—

講師 未来かなえ訪問看護ステーション「すみちゃん」所長 高橋利果氏

看護師として病院勤務されていた時に担当された患者さんの「家に帰りたい」「海が見たい」との言葉を聞き、ホスピス発祥の地イギリスで緩和ケアを学び、平成31年4月に住田町に開所されました。「自分らしく生き抜く」ためには「選択」が重要で、医療資源が乏しい地域においても「家に帰りたい」「家で静かに逝きたい」という選択を尊重し、患者さんやご家族に寄り添い活動されています。地域の看護師に求められることは急変時のサインを見逃さないこと、患者や家族に「今何が起きているのか」を適切に伝え「次に何が起きるのか」まで見通せる「先見性のある」看護の提供や「理解し納得する行動変容」できるよう伝える力の大切さ、さらにその土地に伝わる風土や習慣をケアに取り入れる創造力、住民の信頼を得て慕われる人間性やその地域に溶けこむ力が活動していくうえで大切であると話されました。

講演後には、グループに分かれ、顔のみえる関係づくりの構築、病院・地域・行政・教育機関との情報共有の機会を作るなど、活発な意見交換が行われました。

高橋氏の「すみ」慣れた地域で最後（期）まで「ちゃん」と暮らせるようにサポートすることが使命との力強いお言葉が印象的でした。バイタリティ溢れるお人柄やエピソードに「熱意を感じた」「行動力がある」「情報収集、情報発信する力がすごい」等の感想を多くいただき、保健師、助産師、看護師のそれぞれの立場から学びを深めることができました。

参加者：52名（保健師職能15名、助産師職能8名、看護師職能Ⅰ15名、看護師職能Ⅱ10名、協会役員4名、うち支部職能委員等27名）

自治体保健師の活動内容や魅力発信のためのイベント（12月2日開催）

保健師の人材確保が困難な自治体がみられる中、自治体への就職に興味、関心をもつ看護学生などに保健師の活動と魅力を伝え、保健師の道を選択してもらうことを目的に全国で初めて開催されました。

第1部「自治体保健師の活動内容や魅力発信のためのWebイベント」では都道府県、市町村、へき地等で活躍する保健師の講演がありました。都道府県保健師の立場から仕組みづくりやネットワークの構築により地域の健康課題を改善すること、市町村保健師の立場から住民の声をもとに地域づくりを行うこと、へき地で勤務する保健師の立場から役場以外の人たちとも連携しながら柔軟に対応していることなど、それぞれのすばらしい活動の魅力を発信してくださいました。

第2部では、各都道府県に分かれて「自治体保健師の相談会」を盛岡市マリオスで開催しました。学生、保護者、教育機関から29名の参加がありました。自治体保健師の活動に関心を持っている看護学生が多数いるので、更なる情報発信が必要だと感じました。参加自治体は、北上市、一関市、住田町、大槌町、野田村、軽米町の6市町村で、それぞれの保健活動の特徴や魅力を創意工夫して紹介しました。参加しなかった自治体からも資料提供があり、人材確保や育成を真剣に考えていることが分かりました。また、参加者からの疑問や知りたいことに対応するなんでも相談ブースも開設しました。本県では初開催となりますが、参加自治体の熱いメッセージを受けとり、参加者の皆さんも、保健師の職業ビジョンを広げられる機会となり、盛会裏に終えることができました。



令和6年度 研修会等のご案内



詳細は開催通知または岩手県看護協会の研修申込サイト「manaable（マナブル）」にてご案内します。
 申込方法は岩手県看護協会HP 研修申込サイト manaable から入力、参加費は看護協会会員は無料、
 非会員は1,000円です。（マナブル おすすめです！自分の研修受講履歴を残せますよ。）

事業名	日時・会場	内 容
保健師研修会	8月3日（土） 13:30～15:30 岩手県看護研修センター	講演・演習 『「頼る力」を高めよう ～自分も、家庭も、仕事も大切にしたいあなたの「受援力」 を磨くために～』（仮） 講師 神奈川県立保健福祉大学 大学院ヘルスイノベーション研究科 教授 吉田穂波氏 対象 県内在住の保健師/看護協会会員・非会員
職能合同集会 （ハイブリッド開催）	8月31日（土） 9:30～11:00 岩手県看護研修センター	講演 「迷わず走れ そして飛び込め」（仮） 講師 大阪公立大学大学院看護学研究科・看護学部 実践看護学領域 急性看護学 教授 北村愛子氏 座長 岩手医科大学附属病院 副看護部長 田村ヤス子氏 対象 県内の看護職/看護協会会員・非会員 学生（オンライン参加のみ、参加費無料）
保健師職能委員 交流会	8月31日（土） 11:15～12:30 岩手県看護研修センター	みんなで語ろう 「保健師確保・人材育成のために取り組んでいること」 対象 岩手県看護協会10支部の役員・委員の保健師職
役員・委員・会員 セミナー （ハイブリッド開催）	9月21日（土） 13:30～15:30 岩手県看護研修センター	講演 「地域社会を支える看護職への生涯学習支援 ～これまでの取組成果・課題について」（仮） 講師 公益社団法人日本看護協会 副会長 井伊久美子氏 対象 令和6年度岩手県看護協会会員

看護協会への入会をお待ちしています！



看護協会では、「保健師の人材確保」や「保健師のキャリア形成支援」などの事業を展開しています。
 保健所をはじめ市町村、企業等の産業分野で保健師として働く中で「もっとこんな保健師活動がしたい」
 「スキルアップしたい」という思いを抱えていませんか？

看護職間の連携がすすめられる中、職域を超えた保健師同士の交流はもちろん、看護師・助産師とのネット
 ワークも広がります。入会をお待ちしています。

岩手県看護協会会員数（2024年2月8日現在） 7,702人（保健師305人）

◆◆◆ 令和5年度保健師職能委員会担当理事及び保健師職能委員の紹介 ◆◆◆

- ◎担当理事 千葉 澄子（岩手県看護協会 副会長）
- ◎委員長 後藤 未央子（所属：岩手県立大学）
- ◎副委員長 小川 陽子（所属：紫波町役場）
- ◎委員 菊田 誠子（所属：岩手県久慈保健所）
- ◎委員 村山 美保（所属：岩手医科大学健康管理センター）
- ◎委員 中村 美恵子（所属：盛岡市役所）
- ◎委員 立花 泰子（所属：矢巾町役場）



入会のお申込は
こちらから



発行：岩手県看護協会保健師職能委員会